

①企業立地の推進

◎先端産業の立地推進

- ・徳島県は、白色LEDの世界シェアにおいて約40%を販売するなど、世界一のLED生産地域。
- ・本県では、世界有数のLEDメーカーが立地する優位性を活かし、光関連産業の集積を目的とした「LEDバレイ構想」を平成17年に策定し、地域が一体となって構想の実現に取り組んでいる。
- ・ミッシングリンクの解消により、物流の定時性・安全性が確保されコスト削減が可能になるとともに、LED関連企業の連携が促進され、21世紀の光源であるLEDを利用する光(照明)産業の集積が図られる。

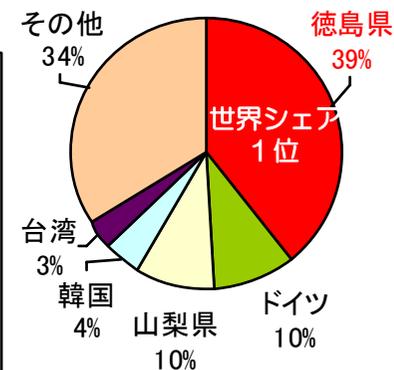
◆徳島県内LED関連企業立地状況



徳島県は世界一のLED生産地域

LEDバレイ構想の実現のためにも四国8の字ネットワークの整備は不可欠

◆白色LED販売額 世界シェア (2008年)



【企業経営者の声】

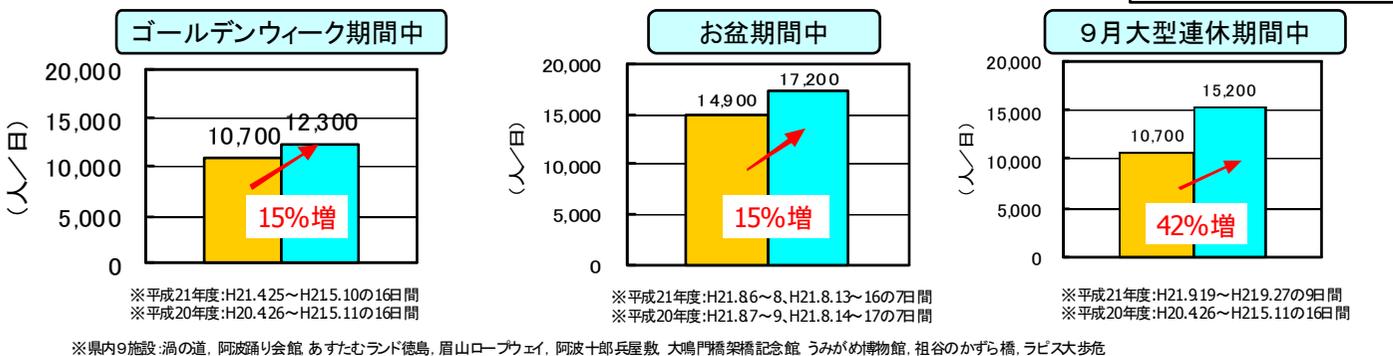
- ～国内で生き残るには～
- ・量産品のほとんどが海外展開
 - ・コストでも品質でも、もはや国内でモノを作る優位性は見いだせない。
 - ・残る条件は『リードタイム』
 - ・短時間にお客様に製品を供給できれば、まだ国内でも生き残れるチャンスはある！
 - ・高速道路の早期整備が、企業生き残りの必須！！

②広域観光の実現

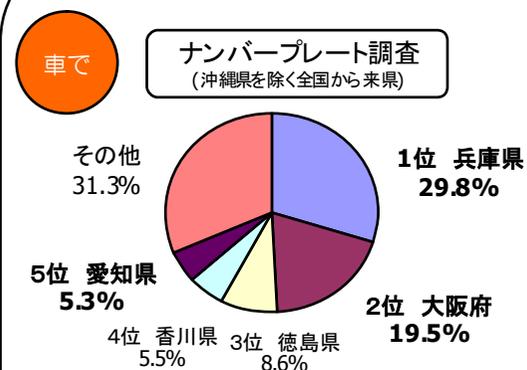
◎「観光立県とくしま」の実現

- ・高速道路料金割引による観光客数の増加、車で日本全国からの来県、潜在的リピーターの存在が調査で実証済み。またフェリーでは社会実験導入後利用者が69%増加。
- ・現在放映中のNHK朝の連続テレビ小説「ウェルかめ」の舞台である美波町のある県南地域や四国初認定の「にし阿波観光圏」などの観光資源が豊富。
- ・ミッシングリンクの解消により、競争力の高い魅力ある観光地の形成や地域活性化が図られる。

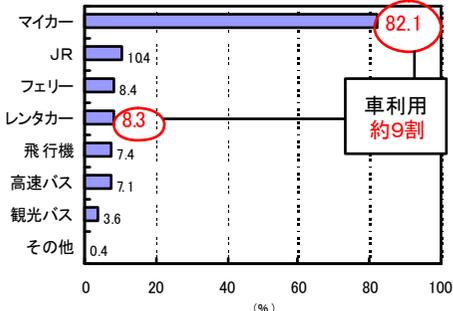
高速道路料金割引により観光客数が増加！



日本全国から来県！



観光客の9割が車を利用！



車利用者の約9割が今年3月からの「高速道路料金引き下げ」が観光理由

さらに約7割が現行料金が続けば、また「四国に行きたい」と回答
→潜在的リピーター

四国経済連合会調査 (H21.11公表) より

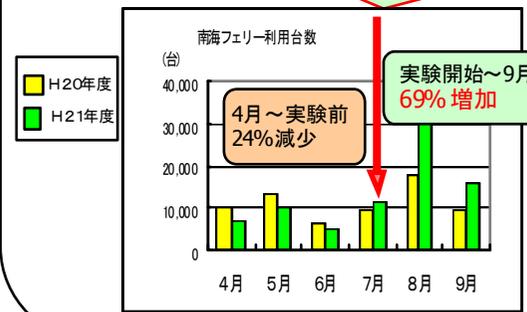


フェリーで 内航フェリーに対する社会実験

7月18日から社会実験開始



フェリー料金 乗用車 9,300円→1,000円



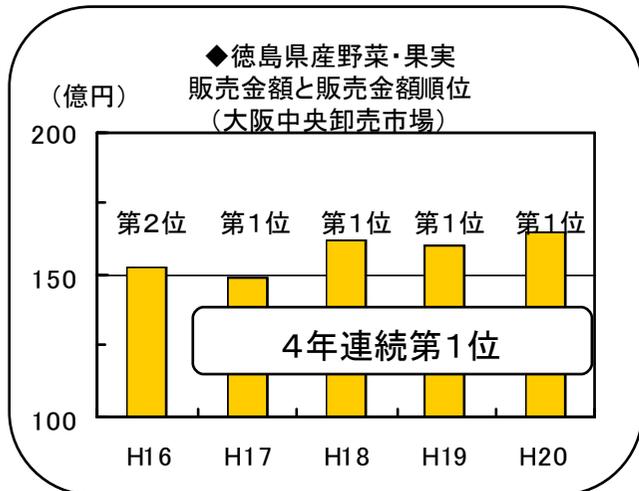
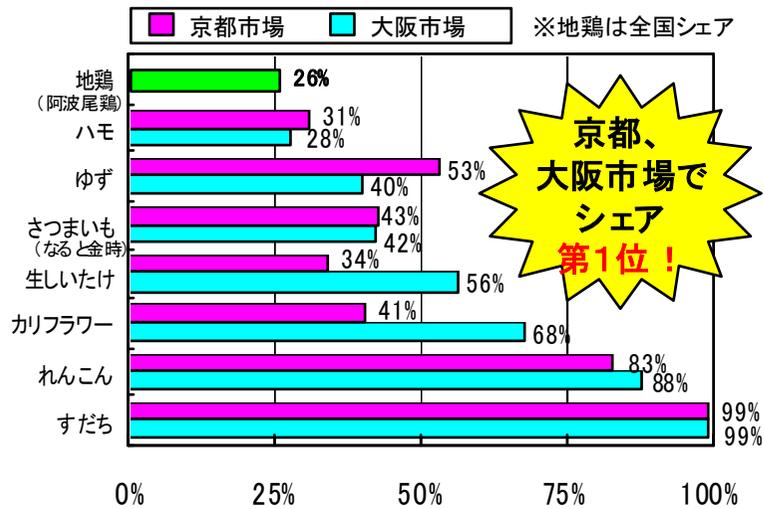
③地域の産業活性化

◎農山漁村の活性化

- ・高速道路の延伸により県産農林水産物の京阪神市場への出荷が急増し、近畿圏への「生鮮食料品の供給基地」となっている。
- ・県南地域は、県の特産物である地鶏「阿波尾鶏」のほか、ハモやアワビなど高級水産物が豊富である。
- ・ミッシングリンクの解消により、都市部の消費者においては「品質・価格の安定」が、地方の消費者においては「生産地域の拡大」が図られる。

徳島県は「生鮮食料品の供給基地」

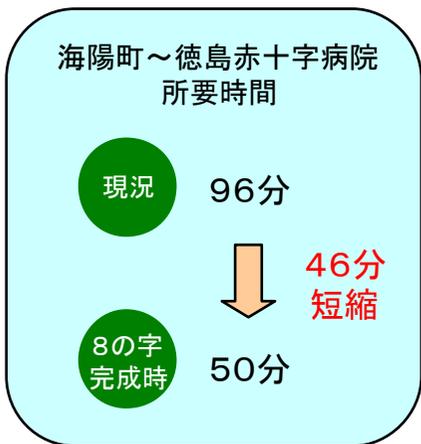
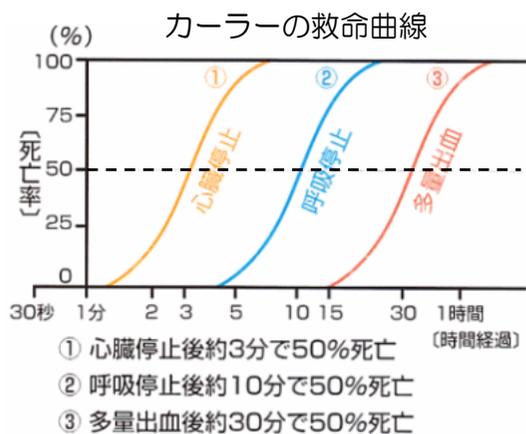
◆徳島県産農林水産物の流通状況(大阪中央卸売市場他)



④命の格差解消

◎広域的医療ネットワークの構築

- ・徳島県の3次救急医療施設は県北部に偏在。
- ・特に県南部においては、地域の医療を支える公立・公的病院の医師不足が顕著であり、地域医療の提供が極めて厳しい状況。
- ・ミッシングリンクの解消により、緊急時でも円滑な救急輸送が可能となり、安全・安心な医療環境が保たれる。



※四国横断自動車道パンフレットより

⑤災害から国民を守る

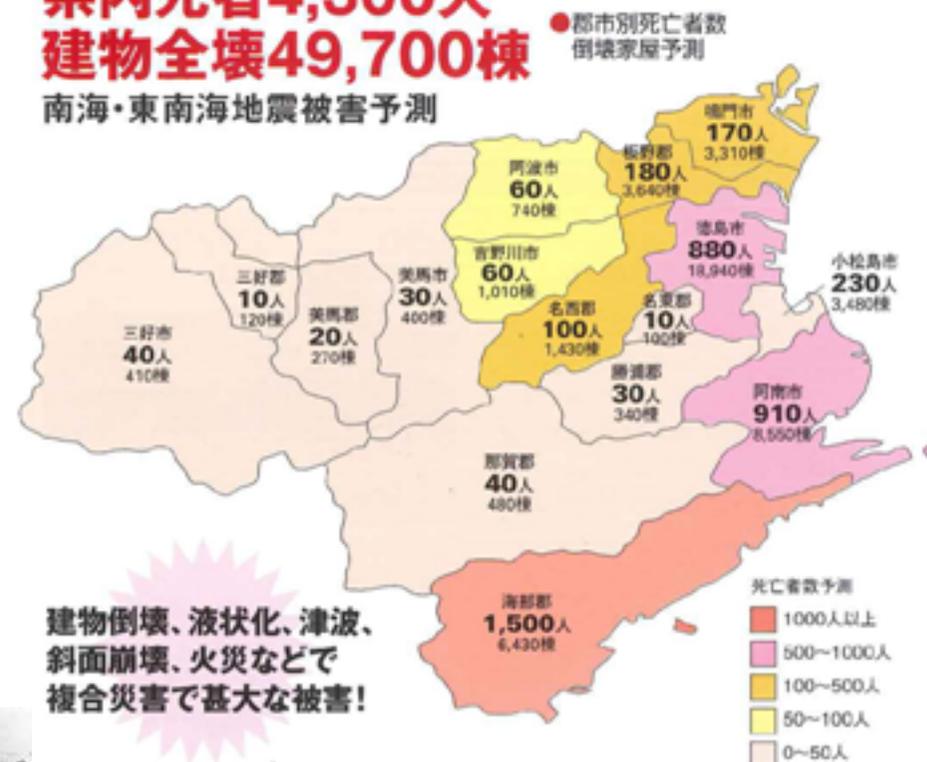
◎災害に強い社会基盤整備の推進

- ・四国東南部は、今後30年以内に50～60%の確率で発生すると予測されている南海地震で最も大きな被害が想定される地域のひとつである。
- ・現在、この地域では一般国道55号が唯一の幹線道路として人々の暮らしを支えているが、震災時には津波による寸断が懸念されている。
- ・ミッシングリンクの解消により、災害時の避難活動・救急輸送等が可能となり、県民の安心・安全が確保される。



**県内死者4,300人
建物全壊49,700棟**

南海・東南海地震被害予測



●徳島県の被害想定(南海-東南海地震が同時発生した場合予想される最大死者数)

季節時間	原因	建物倒壊	津波	斜面崩壊	火災	合計
冬の朝5時		約2,500人	約1,700人	約100人	—	約4,300人
秋の昼12時		約1,500人	約1,500人	約100人	—	約3,100人
冬の朝9時		約1,700人	約1,400人	約90人	約300人	約3,500人

徳島県地震動被害想定調査(平成17年3月)による

異常気象による交通途絶



道路冠水



山腹崩壊



昭和南海地震:海陽町浅川被害状況

⑥東アジア共同体の構築

◎東アジアをはじめとする広域交流の活性化

- ・徳島空港は、H22年度春には滑走路が2,500mに拡張供用され、安全性の向上や国際チャーター便の利用促進が図られる。
- ・徳島の海の玄関「徳島小松島港」では、物流機能の充実・強化を図るため、耐震岸壁-8.5mや国際海上コンテナターミナルを整備中。
- ・ミッシングリンクの解消により空港・港湾へのアクセス性が向上し、国内外と徳島を結ぶ広域交通ネットワークの実現が図られる。



① 徳島阿波おどり空港



四国横断自動車道

鳴門JCT～徳島IC
平成26年度供用予定

国際チャーター便
・成都
・ソウル
・済州島
・香港
・シンガポール

徳島JCT～阿南IC
概ね10年後完成予定

韓国(釜山)～徳島
コンテナ航路

東京～徳島
～北九州
フェリー航路

平成23年度春より

韓国(釜山)～徳島
コンテナ航路

至 阿南IC

② 徳島小松島港 沖洲(外)地区



③ 徳島小松島港 赤石地区



⑦ 渋滞解消・地球温暖化対策

◎環境負荷の軽減

- ・徳島県における渋滞は、高速道路のミッシングリンクである徳島県東部に集中。
- ・特に徳島市中心部では四国内で1, 2位の交通量が発生し、渋滞により徳島県民が1年間に損失する時間は45時間と全国平均値と比べて約1.5倍も高い。
- ・ミッシングリンクの解消により円滑な交通が確保され、利便性・定時性が向上するとともに環境負荷の軽減が図られる。

●1kmあたり渋滞損失時間(千人時間/年・km:H18)

- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道



国道11号 かちどき橋付近の渋滞

●徳島市中心部の道路網



●人口あたりの渋滞損失時間(時間/年)

年度	全国値 (県道以上)	徳島県 (県道以上)
H18	29.6	45.0

全国値の1.5倍

県民1人が1年間に45時間もの無駄な時間を消費していることになります。